- 1 仁木町立学校の令和7年度 教科の調査結果
- (1) 各教科における各学校、町、道、国の平均正答数・正答率

仁木町立学校 '	7年度各教科の平均正答数・	正答率	(引用:文部科学省	令和7年度全国学力	· 学習状況調査	調査結果概要)
----------	---------------	-----	-----------	-----------	----------	---------

				小学校			中学校						
		国	語	算数		理科	国語		数学		理科		
		令和7年度	令和6年度	令和7年度	令和6年度	令和7年度	令和7年度	令和6年度	令和7年度	令和6年度	令和7年度		
【上段】 平均正答	町	9.3/14	10.1/14	9.8/16	10.4/16	8.9/17	8.1/14	8.2/15	5.8/15	7.6/16	3.0/6		
数 (問)	μј	66.4%	72.1%	61.3%	65.0%	52.4%	58.1%	54.7%	38.8%	47.3%	50.0%		
【下段】 平均正答	道	9.2/14	9.3/14	8.8/16	9.7/16	9.6/17	7.6/14	8.6/15	7.0/15	8.2/16	3.0/6		
率 (%)	坦	65.0%	66.8%	55.0%	60.6%	56.0%	54.0%	57.6%	47.0%	51.0%	50.0%		
	国	9.4/14	9.5/14	9.3/16	10.1/16	9.7/17	7.6/14	8.7/15	7.2/15	8.4/16	2.9/6		
		66.8%	67.7%	58.0%	63.4%	57.1%	54.3%	58.1%	48.3%	52.5%	48.3%		

※町全体の数値は国が公表した数値をもとに算出(小数第2位以下を四捨五入)

○本町の各教科の平均正答率の全国平均値との差は、令和7年度は小学校国語(-0.4)算数(+3.3)理科(-4.7)、中学校国語(+3.4)数学(-9.5)、理科(+1.7)であり、小学校においては、理科に課題があるものの、国語、算数は、ほぼ全国平均的な学力を身に付けている。中学校においては、数学に課題があるものの、国語、理科は全国平均値を上回る正答率となっている。

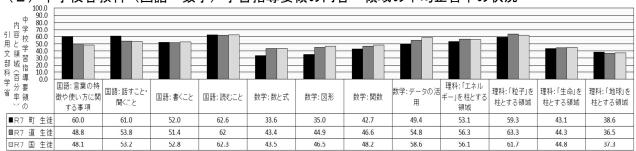
# 2 令和7年度仁木町立学校の各教科学習指導要領の内容と領域別調査結果

(1) 小学校各教科 (国語・算数) 学習指導要領の内容・領域の平均正答率の状況

内容と領引	1	90.0 90.0 70.0 70.0 90.0 90.0 90.0 90.0															
引用文部科学省習指導要領の 習指導要領の	』 第 ヤ	国語: 言 葉の特徴 や使い方 に関する 事項		国語: 我 が国の言 語文化に 関する事 項	国語:話 すこと・聞 くこと	国語: 書< こと	国語: 読 むこと	算数: 数と 計算	算数: 図 形	算数: 測定	算数: 変 化と関係	算数: データの 活用	ギー」を柱	子」を柱と	理科:「生 命」を柱と する領域	球」を柱と	
■R7	₩Ţ	児童	83.3	54.2	87.5	63.9	75.0	52.1	61.4	66.7	62.5	63.9	60.0	43.8	50.6	43.8	61.1
<b>■</b> R7	道	児童	74.8	61.8	80.6	65	68.3	56.1	58.6	53.9	50.7	55.4	60.9	44.8	50.7	51.9	65.9
□R7	王	児童	76.9	63.1	81.2	66.3	69.5	57.5	62.3	56.2	54.8	57.5	62.6	46.7	51.4	52.0	66.7

- ○小学校国語の学習指導要領の各内容における平均正答率の全国平均値と比較すると「情報の扱い方に関する事項」(-8.9)「読むこと」(-5.4)「話すこと・聞くこと」(-3.1) 以外の内容において全国平均値より高かった。「言葉の特徴や使い方に関する事項」では 6.4 ポイント、「我が国の言語文化に関する事項」では全国平均値より 6.3 ポイント高かった。
- ○小学校算数の学習指導要領の各領域における平均正答率の全国平均値との差は「数と計算」(-0.9) とほぼ全国平均値に近く、それ以外の各領域においては、すべて全国平均値より高かった。
- ○小学校理科の学習指導要領の区分・領域における平均正答率の全国平均値との差は、「生命」を柱とする領域(-8.2)「地球」を柱とする領域(-5.6)であるが、他領域はほぼ全国平均値に近い。

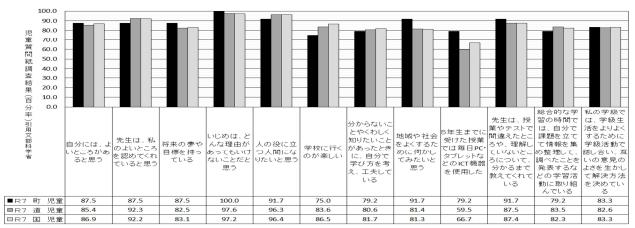
### (2)中学校各教科(国語・数学)学習指導要領の内容・領域の平均正答率の状況



- ○中学校国語の学習指導要領の各内容における平均正答率の全国平均値との差は「言葉の特徴や使い方に関する事項」(+11.9)「話すこと・聞くこと」(+6.8)「読むこと」(+0.3)の内容において全国平均値より高かった。
- ○中学校数学の学習指導要領の各領域における平均正答率の全国平均値との差は、全ての領域において全国平均値を下回っており、「数と式」では9.9 ポイント、「図形」11.1 ポイント低かった。
- ○中学校理科の学習指導要領の各領域における平均正答率の全国平均値との比較では、「地球」を柱とする領域(+1.3)以外は、わずかに低い平均値となっている。

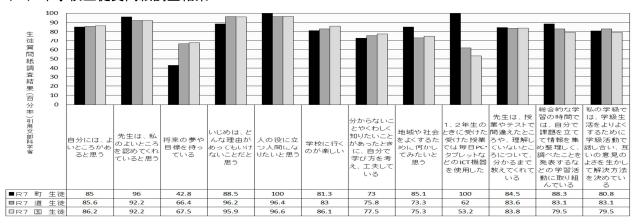
## 3 児童・生徒質問紙の調査結果(学習の状況や家庭での生活の様子などについて調査した結果)

### (1) 小学校児童質問紙調査結果



- ○小学校では「自分には、よいところがあると思う」「将来の夢や目標を持っている」などの「自己肯定感」に関する設問への肯定的回答率が全国平均値より高く、昨年度の本町の数値よりも高かった。
- ○小学校・中学校ともに、総合的な学習の時間を通した探究的学習、「ふるさとキャリア教育」を小中 一貫教育によって実践しており、「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」に関する 設問では児童生徒の肯定的回答率が全国平均値よりも高かった。

### (2) 中学校生徒質問紙調査結果



- ○中学校では、「総合的な学習の時間で自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。」という「探究的学習の充実」に関する設問、「先生は、私のよいところを認めてくれていると思う」などの「心理的安全性の高さ」に関する設問への肯定的回答率が全国平均値より高かった。
- ○本町では早期から一人1タブレットによる授業実践の充実に努めており、小学校・中学校ともに、「これまで受けてきた授業では毎日 PC・タブレットなどの ICT 機器を使用した」に関する設問において全道、全国平均値より高い数値を示している。